

# 「LCCのフラットシート」

2019年2月以来のアメリカツアー再開だ。成田、サンホセ間はJAL・LCCのZIPAIRのビジネスクラスを片道11万5000円で利用できた。

予約してあった有料のペンを食べて、シートをフルフラットにして軽く寝ることになった。時間がどのくらいたったのかわからないが、シートが意図しないで普通の椅子状態になった。たぶん寝ているときに椅子の戻るボタンを押したのだろうと、深く考えないでまたフルフラットにして寝入ることにした。

すると、またシートが意図しないで普通の椅子状態に戻った。またボタンを押して間違えたのかな。と思ってボタンの操作を確認すると、ボタンを押している時間だけ操作可能で、ちよつとボタンを触れただけでフルフラットになるわけではないことが分かった。

では、なぜ勝手に動くんだ？そこで、あちこちを触ってみた。えっ？なんだこれ？シートの肘あての特定の場所を2秒くらい触るとシートが勝手に動くことが分かった。その怪しい動きをCA

さんは見逃さなかった。

「どうかなさいましたか？」。LCCのCAは積極的に搭乗者に声掛けはしない。カクカクシカジカなんですよと説明したら、「申し訳ありません、本日空いているシートはございません」となった。周りを見ると確かにビジネスクラスは満席だった。肘あてに肘を乗せなければ問題ないので、ボタンに触らないようにしてしのいだ。

サンホセで乗り継いでシアトルに着いた。スーツケースは買い出し用として余分に1個、計2個だ。スーツケースをくるくる回るコンベアから引き出した。カートは10ドルとかなりフツカケてくるし、返金なしのシステムだ。周りを見ると、お金を払ってカートを使っている人は少ない。コンベアからスーツケースを取り出す前に一度外に出て、放置されたカートを持ってきているのだ。世の中知らないが無駄な出費になります、

## Vol.184

### ブルーアイ たくさんいましたよー(5)



1953年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。  
Illustration by Kazushige Akita

という話である。

空港の外に出て、シャトルバス乗り場に向かいハーツレンタカーのカウンターに着く。予約の仕方はいろいろある。無駄な金は払いたくないので、ネットサーフィンでいろいろ探してみることになった。直接レンタカー会社のサイトにアクセスするのが確実だが、今回はZIPAIRのサイトから提携するハーツレンタカーに入ると明らかに価格

# オレにも 言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

に違いがあった。ただ、今回は乗り捨てになるので、通常の30%くらい高い料金は想定範囲内だ。

また、当初は到着したサンホセからアイダホ州の小麦生産者の村井誠一さんの農場に近いスポケーン空港に向かい、そこでレンタカーを借りる予定だった。そこで借りてミネアポリスで返すと、標準のおつたまげの2倍の料金になる。あとで分かったことだが、スポケーンのハーツレンタカーはフランチャイズ運営なので高く、シアトルのような大都市のハーツは直営店なので、フランチャイズ店と明らかな価格差がある。

今回、7人乗りのSUVを予約してあった。この手の車は自家用車として過去何十年も使っているので、特別大きくは感じなかった。問題は別にあつた。翌日来る北海道S農場のL君はまだ20歳だ。アメリカの大手レンタカーは21歳からで、ハーツレンタカーのみが20歳で運転できるが料金は10%くらい高い。すべての保険関係や燃料は、空で返すことやロードサービスを確認した。

車種はフォードのエクスポローラーだ。ん〜ん、嫌な予感がした。車を借りて、まずは3マイル離れ

たモータールに向かう。ちょうど30マイル(時速48km)で左後輪から異音が発生するのだ。まだ時差ボケだったので、とりあえず次の日にハーツカウンターに相談することにした。

## チップもカード決済?

ホリデー・イン系(クラウンプラザ、ホリデー・イン・エクスペレス、エクステッドステイ等)には泊まらない。間違いなく宿泊客に大陸の中〇人が多いのだ。まして西海岸だから間違いなくたくさんいる。静かに泊まってくれば文句は言わないが、そうでない場合に何回か遭遇したことがある。差別はしたくないので、アメリカ人しか泊まらない系のホテルを予約した。

シアトルはホテルチェーンのベストウエスタンだ。無料ブレッキー(朝食)付きで、翌日からはL君も泊まるので、ツインで2万円くらいだ。高くはないが4年前と比較すると、物価上昇と円安の関係で50%は高くなった。

やはり中〇系はゼロ。ほぼアメリカ人客ばかりだ。軽く休んで夕食に出かけることにした。フロントで聞くとクォーター・マイル

(400m)先にモータールがあるとのこと。早速、車で向かうことにした。最初に目に入ったのがあのサンドイッチのサブウェイだ。オレンジジュースとフットロングの半分(長さ15cmくらい)に、辛いハラペーニョを少し入れてオーダーした。

支払はアメックス。日本と同じでカードリーダーの下にある差し込み口にカードを入れる。そこまでは日本と同じだ。購入した価格がデジタル表示だった。だが、別な表示があつた。なんとチップはアナログ表示の機械で数字が紙の上で動いて、バー(線)を指でゼロから30%の好きな場所に操作して、納得した数字のところポタポタを押して、カードのピンコードを入力するシステムだ。

この手のファスト・フード店でチップを払ったことはなかったが、その時点で女性従業員は一人で切り盛りし、隣のカウンターで次のお客のオーダーを取っていた。私は「従業員は金髪・ブルーアイだし、一人で頑張っているからな」と、普通のレストラン並みの20%の数字を押して、カードのピンコードを押した。

翌日はシアトルの空港まで戻

り、L君の到着をインターナショナル・アライバルで待つことになる。L君をピックアップして再度ハーツレンタカーのカウンターに戻り、異音が出ることを伝えると今度はGMシェビーに交換してくれた。シェビーは15年乗っていたのでエクスポローラーよりは馴染みのあるブランドだ。

冒頭の話に戻る。そういえば、以前大手キャリアのビジネスクラスのスーツがフルフラットにならなかったがあつた。CAにクレームを伝えたが両手を胸まで上げて肘を両方90度外側に広げて、「Sorry」だってよ。確かにあの時はビジネス往復で17万5000円だったからあまり文句も言えないが、とりあえず日本に帰ってからそのキャリア航空会社にクレーム内容と名前、マイル番号を伝えたら、なんと3万マイルいたってきた。

皆さん間違えてもクレームは日本語で書かないで、搭乘させていただいたことに感謝を込めて、丁寧なイングリッシュで伝えましょうね。いるよね、イングリッシュはできなくて、英語が得意な小作人根性の日本人?

(つづく)